

児童精神科領域研究会
「コミュニケーションにおける
対人関係の心理学とその技能」

2012. 1. 18

医療法人 杏和会 阪南病院

松島 章晃

コミュニケーション？

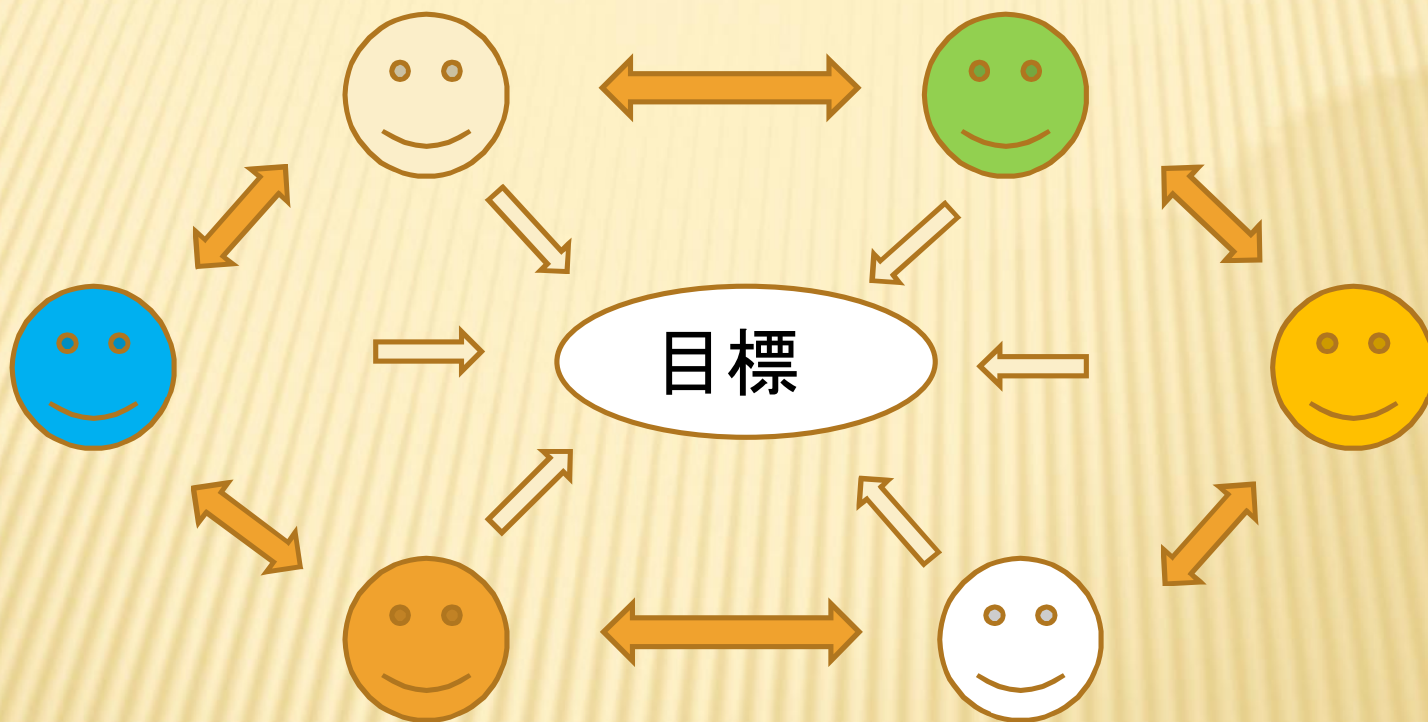


いつ？どこで？どんな？

「なぜ？」

コミュニケーションは、なぜ重要なのか？

「なぜ？」



「なにを？」

得たい結果とは？

「なにを？」

想いの共有
(SHARE)

1. お互い理解し合えた安心感

2. 信頼関係

3. 解決策が生まれる

「なにを？」

想いの共有
(SHARE)

怒り、不信感



1. 心から相手のことへ関心を向ける



鍵：心から相手のことを知りたいと思うこと

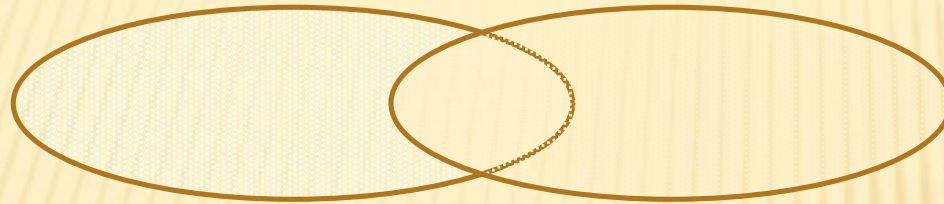
例：

「何に興味があるのか？」

「将来の目標は？」

「現在、どんな困難に直面しているのか？」

2. 違いを認める



鍵：共通点より相違点を理解する

1. 相手への先入観、偏見を認める
2. 相手の欠点を許して、良い所を見つける。
3. 相手の物の見方を理解する



相手の理解を深めることができる。

3. 傾聴すること



鍵：「自分を理解してくれた。」と相手が満足するレベルまで正しく話を聞く姿勢を持つこと

1. 相手の話を聞いて理解する
2. 理解したことを伝える
3. 理解できていないことは質問する

(モデルケース)

- × 14歳 女兒
- × (発達歴) 発達歴に異常みられず。
- × (家族歴) 両親、本人、妹小3、弟小1、弟4歳、の6人暮らし

(現病歴)

- × 中学に入り、当初は、学校を休まずに登校していたが、中2に入り、5月より学校を休みがちになった。家では、自分の部屋も整理せずに雑然とするようになり、2学期に入っても、不登校が続き、全く行かなくなった。そのため、親が心配して、〇月X日当院を受診した。

(現症)

- × 初診時、本人、表情硬く、緊張している様子。
- × 9月より、学校に行っても、授業の話が頭に入らない、家の家事を手伝っても、ペースについていけないという状況であったとのこと。
- × 家でも、好きな趣味をしたい、テレビを見たいと思わない、見ても筋が頭に入らないとのこと。
- × 親も、本人に当たってしまうとのこと。

経過

- × うつ病の診断伝える。
- × 本人に休養すすめる。「十分頑張っていること」を支持して、
- × 両親に、励ますのではなく、理解を示すように伝える。
- × 通院、入院の両方の選択肢を伝える。

経過

- × 本人と家族が相談する中で、入院を希望する。
- × 入院目的は、休養することと伝える。
- × 入院当初は、身の回りのことをする程度。
- × しばらくして、院内学級により、学習のペースをつかみながら、学校での失敗体験から、成功体験を見出す機会を持つ。
- × 入院の他児と卓球や、園庭で遊んだりするなど、集団とのかかわる機会を増やす。

経過

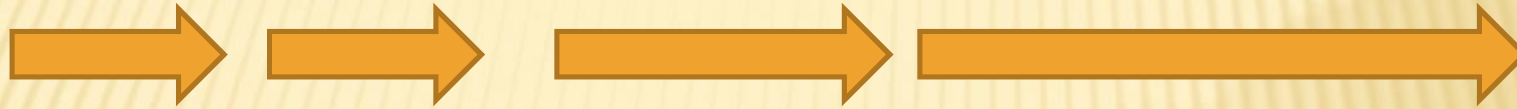
- × 家族に対しても、心理教育として、本人とのかかわり方を伝え、面会時に、実践してもらおう。病棟内面会、院内散歩、院外外出、外泊
- × 臨床心理士によって、本人の心理状態を把握して、本人の特性を理解し、それも併せて、家族に伝える。
- × 入院中、院内学級も通学できた頃に、学校と面談を行い、試験登校を行う。

経過のまとめ

面会、院内外出

院外外出

試験外泊



家族教育

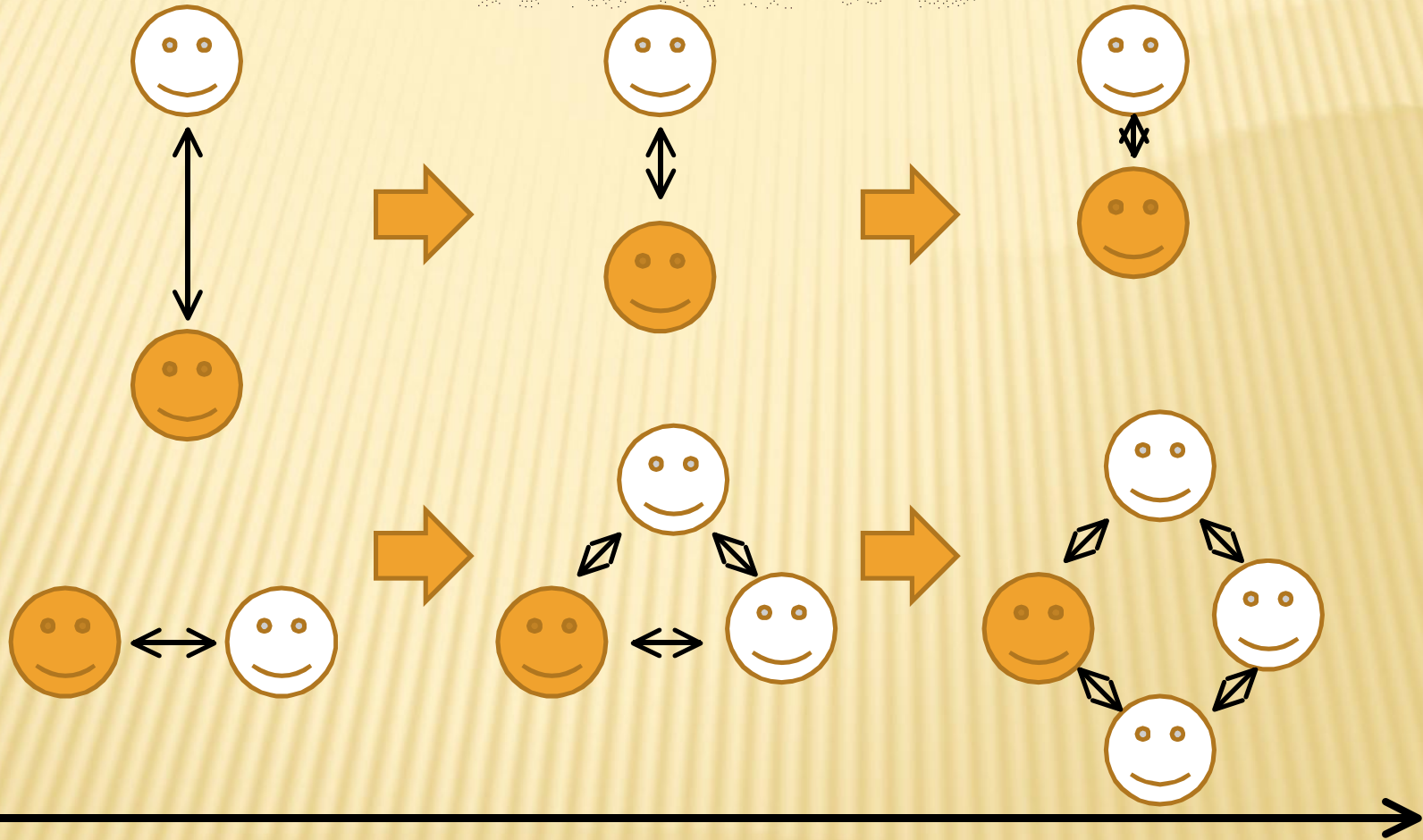
試験登校

院内学級

休養



経過のまとめ

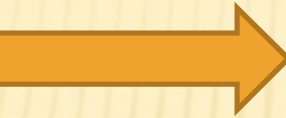


親子のコミュニケーション

怒り、不信感

分かってくれない！

怒り、不信感



頑張れ！

親子のコミュニケーション

信頼感

分かってくれる！

信頼感

理解しよう！十分だよ！

1. 信頼関係
2. 解決策、入院する
3. 自己肯定感の回復

4. 話すこと

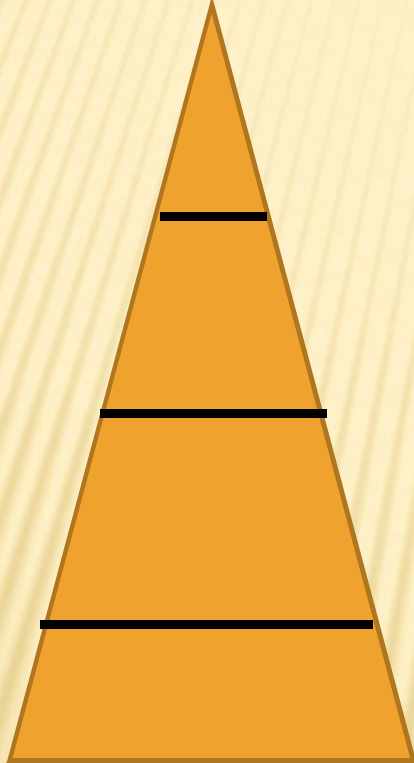
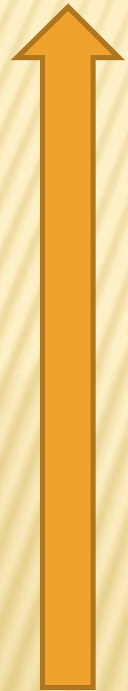


鍵：あなたが最大限に相手に良くなってほしいと考えていること

1. 事実を伝える。
2. 相手の解釈を理解する。
3. 相手の共通点を見つけ、解決を探す。

疾患の回復の段階

モチベーション



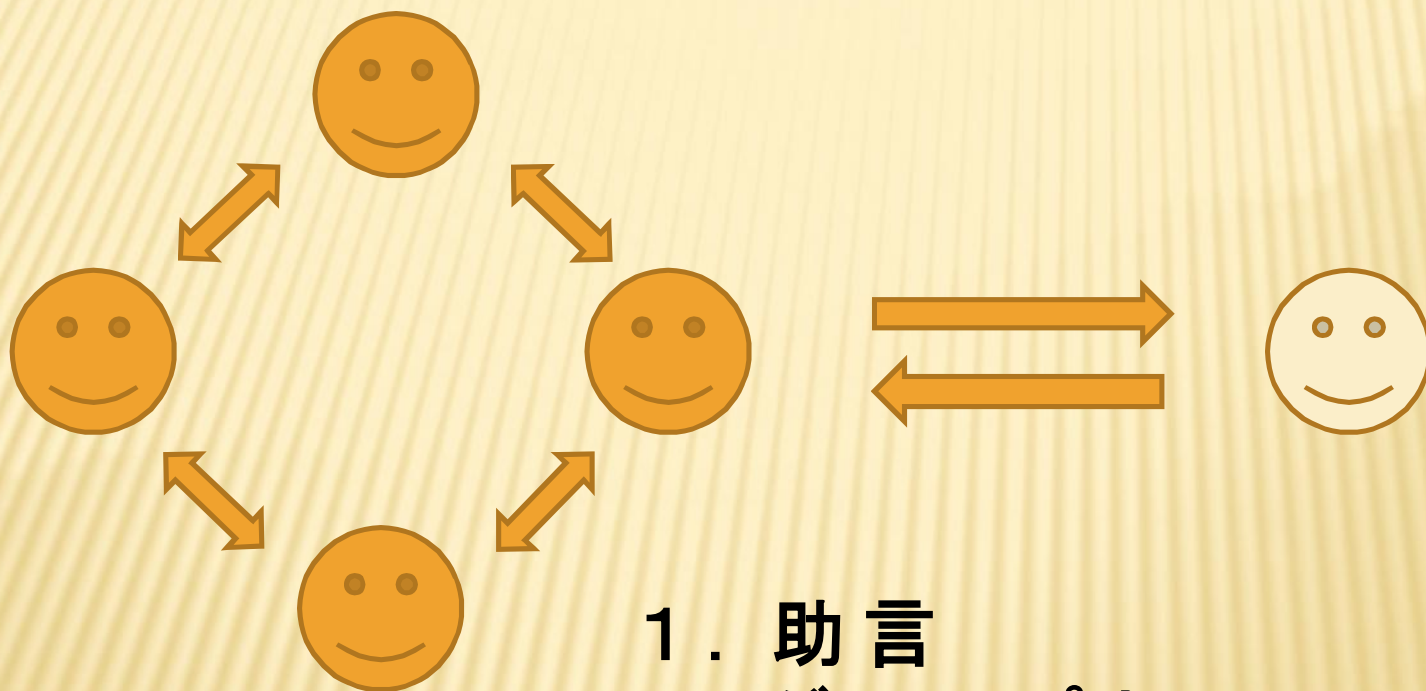
自己肯定感、自己評価

対人関係、感情の変化

学習、日常生活技能、趣味

睡眠、食事、休養

グループの活用



1. 助言
2. グループカンファレンス

